

平城宮跡資料館 秋期特別展

地下の正倉院展

木簡学ことはじめ

会期二〇一三年十月十九日～十二月一日

展示期間

- 第Ⅰ期 10月19日(土)～11月1日(金)
第Ⅱ期 11月2日(土)～11月17日(日)
第Ⅲ期 11月19日(火)～12月1日(日)

展示は3期に分けておこないます

ギャラリートーク

- 第Ⅰ期 10月25日(金)午後2時半～
第Ⅱ期 11月8日(金)午後2時半～
第Ⅲ期 11月22日(金)午後2時半～

入館無料 月曜休館(十一月四日は開館)

開館時間——午前九時から午後四時三十分(入館は四時まで)

開催場所——平城宮跡資料館 企画展示室にて

(近鉄大和西大寺駅北改札口から東へ徒歩十分)

地下の正倉院展

木簡学とはじめ



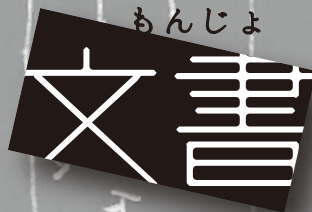
今からちょうど50年前の1963年8月、真夏の平城宮跡発掘現場で、おどろきの大発見がありました。のちにSK820と名づけられるゴミ捨て土坑から、約1900点もの木簡が出土したのです。平城宮跡で初めて木簡が見つかったのは1961年1月のことでしたが、点数は数十点ほどでした。そこに、まさに空前の大出土。当時の調査員たちは興奮や喜びとともに、あるいはそれ以上に困惑を覚え、苦難に直面したことでしょう。

しかしこの発見は、日本の木簡研究を飛躍的に押し進める起爆剤となりました。SK820出土木簡には文書・付札・習書といった古代日本における木簡の典型的な用法が凝縮しており、これらの調査・研究を通して木簡学の礎が築かれたといっても過言ではありません。そしてそれは、全国の出土木簡の総数が40万点に迫ろうとしている現在も、高い有効性を保っています。

今回の展示では、このSK820出土木簡を中心に、その前後の発掘事例や出土品なども加味しつつ、産声をあげたばかりの木簡学が大きな成長を遂げてゆく過程を描きます。研究の最前線に立った調査員たちの四苦八苦・試行錯誤を追体験しながら、木簡研究の基礎部分についてのご理解を深めていただければと思います。



つけふだ



もんじよ

会場への行きかた



近鉄大和西大寺駅北改札口から
東へ徒歩10分

同時開催

都城発掘調査部
平城宮・京発掘調査の50年

奈良文 平城宮跡発掘調査部(現 都城発掘調査部 平城地区)の歩みを、調査した数々の遺跡写真とともに振り返ります。